

居住者と来訪者が捉えた高野街道らしさの解明に関する研究

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 鳴田 佳穂里
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 武田 重昭
大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 加我 宏之
大阪府立大学研究推進機構 増田 昇

1. 研究の背景及び目的

歴史的な建築物等を数多く保有している歴史街道は、歩きながらその場所の歴史や伝統を実感でき、地域にとって貴重な資源といえる。しかし、高度経済成長期以降、利便性の追求や周辺開発によってその歴史街道らしさは失われていった。一方、近年では景観に対する考え方が見直されつつあり、全国で歴史街道の保全や再生運動が活発化している。¹⁾

河内長野市の高野街道では、1998年から2005年にかけて行われた南海三日市町駅前西地区の市街地再開発事業等により街道の景観は破壊されていった。その後、駅周辺の旧街道の修景舗装などによる景観保全の整備や、南海/近鉄河内長野駅周辺の酒蔵を中心としたエリアの景観を守る取り組みがなされた。しかし、それらの取り組みは、修景のための歴史的な資料が乏しく、具体的な景観の目標像が不明確なままに行われている。このような街道で、修景整備を行う上で街道沿いの居住者や街道を訪れる来訪者が、どのような景観を街道らしいと感じるかを知ることが重要であると考えられる。

このような状況のもと既往研究を見ると、歩行者の視点からの景観分析としては、及川ら²⁾による代官山周辺での景観要素や個人の経験によって利用者が持つイメージが変化するかを調査したものや、歴史街道の景観を扱ったものとしては、塩田ら³⁾による枚方市での3次元都市モデルを用いた伝統的な街並みのシミュレーション及び視覚的な変遷の把握を試みたものなどがあり、参考となる過去の資料が不足している歴史街道に対し、景観分析の観点から整備の規範を探ることは急務であると考えられる。

そこで本研究では、居住者と来訪者が捉える高野街道らしさの解明を通じて、今後の高野街道らしさを表出した整備のあり方を探った。

2. 研究方法

(1) 調査対象地の設定

調査対象地は、高野街道のうち河内長野市の南海/近鉄河内長野駅から南海三日市町駅の総延長約2kmであり、高野街道の中でも比較的歴史・文化資源が集積し、なおかつ近年、各種の修景整備に取り組みされている区間である。対象地では、2006年から2009年にかけて三日市町駅周辺の景観整備が行われた。また、2010年には調査対象区間全

域が大阪府の石畳と淡い街灯まちづくり支援事業のモデル地区に選定され、『高野街道にぎわい・まち並み再生プラン-いこしえのみち復活プロジェクト-』が始動した。このプロジェクトは2012年まで行われ、後ほど述べる街路や建築物の工事、ファニチャーの整備のほか、景観ルールづくりやまち歩き等のイベントの実施、街道散策マップの作成等の啓発活動も行われた。現在では、地域住民を中心とした勉強会の開催や広報誌の発行、市の協力のもとイベント等が実施されている。

(2) 調査及び解析方法

本研究では、まず、対象区間内から視認できる歴史・文化資源と、修景整備内容について把握した。次に、写真投影法を用いて高野街道らしい景観、高野街道らしくない景観について把握した。修景整備内容の調査は、2016年5月から6月に行った河内長野市役所の都市創生課へのヒアリング調査及び整備事業に関する市役所からの提供資料を参考に、調査対象区間内の修景整備についてまとめた。さらに、整備内容について街路・建物等の工事およびファ

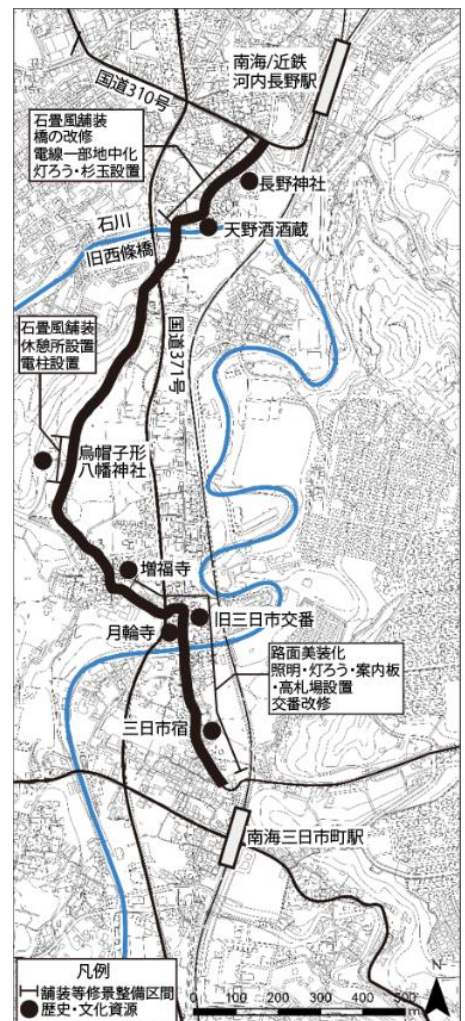


図1. 調査対象地

ニチャーの整備に分類した。また、対象区間内の現地調査を行い、整備位置を把握し、具体的な整備位置を把握した。次に、歴史・文化資源の調査は、同ヒアリング調査及び河内長野市教育委員会から発行されている「高野街道散策マップ 河内長野駅～三日市町駅まで」を参考に、調査対象区間周辺の社寺等の文化的施設や歴史的建築物等について把握した。解析では、対象区間内の現地調査を行い、目線の高さより視認できるものを抽出した。

写真投影法を用いた景観調査の被験者は、街道をよく知る居住者として長野町会の会員5名と旧三日市交番管理運営委員会の会員1名の計6名、街道を初めて訪れる来訪者に代わるものとして本学緑地計画学の学生6名とした。被験者には撮影場所と方向を記入する調査シートとデジタルカメラを配布し、調査対象区間において高野街道らしいと感じる景観と高野街道らしくないと感じる景観の写真撮影を依頼した。但し、撮影に関しては街道内から見るのできる風景のみとし、屋内の撮影は含まないものとした。調査は、居住者は2016年9月及び10月、学生は2016年11月に実施した。居住者によって撮影された写真の総枚数は112枚であり、うち109枚を解析対象とした。学生によって撮影された写真の総枚数は104枚であり、すべてを解析対象とした。また、各被験者に各写真の撮影理由についてのヒアリングを行った。解析では、撮影理由から撮影対象を特定し、それらを景観構造として単体景、敷地景、街路景、全体景に分類した。さらに、景観構造ごとに自然物、人工物に分類した。また、撮影位置について地図にプロットし、各区間ごとの出現数や出現割合について集計した。なお出現割合は、居住者、学生それぞれについて、高野街道らしい景観、高野街道らしくない景観ごとに各区間の総撮影数を全区間の総撮影数で除したものとした。

以上の解析結果を用いて、居住者と学生の、高野街道らしい景観と高野街道らしくない景観について比較考察し、高野街道らしさについて考察した。

3. 結果及び考察

(1) 修景整備内容

河内長野駅～国道371号の区間では、地元の間伐材を活用した杉玉製作と沿道への掲示が区間全域に渡って行われた。屋形看板型灯ろう6基、小型灯ろう27基が製作され、区間全域に渡って掲示された。また、旧西條橋周辺の石畳風舗装や電線類一部地中化が行われた。国道371号～烏帽子形八幡神社の区間では、烏帽子形八幡神社前休憩施設の設置、神社前電柱撤去及び石畳風舗装が行われた。烏帽子形八幡神社～国道371号では増福寺前高札場の設置が行われた。国道371号～三日市町駅の区間ではアスファルト舗装、カラー舗装、照明設置が区間全域に渡って行われた。三日市橋の落橋防止装置、地覆改修工事、高欄改修工事が行われたほか、屋形看板型灯ろう13基が製作され、

区間全域に渡って掲示された。また、三日市駅前に三日市宿「弘法大師・常夜燈」説明看板が設置された。河内長野市指定文化財旧三日市交番の保存・修理のため解体調査、耐震補強、保存修理が行われた。

以上のように、修景整備は街路や建築物の工事、ファニチャーの整備ともに河内長野駅～国道371号の区間及び国道371号～三日市町駅の区間で多く行われていることが分かる。また、河内長野駅～国道371号では酒蔵どおりの街並みとして統一された景観が目指されている。一方、他の区間では各整備内容に統一感がなく、断続的に整備されていることが明らかとなった。

(2) 歴史・文化資源

河内長野駅～国道371号の区間では河内長野駅付近に長野神社が存在する。また、長野神社の南西には酒蔵どおりが存在する。国道371号～烏帽子形八幡神社の区間では烏帽子形山の東斜面中腹に烏帽子形八幡神社が見られる。烏帽子形八幡神社～国道371号の区間では国道371号付近に増福寺が存在する。国道371号～三日市町駅の区間では三日市宿の北部に旧三日市交番が存在するほか、増福寺の南には三日市宿が存在する。

以上のように、歴史・文化資源は河内長野駅～国道371号の区間及び国道371号～三日市町駅の区間に集積していることが分かる。

(3) 景観調査

表3-1は、居住者と学生が撮影した高野街道らしい景観とらしくない景観の写真枚数及び割合を示している。居住者と学生について、それぞれの撮影枚数及び割合に大きな差は見られなかった。

表3-1. 居住者と学生が撮影した、高野街道らしい景観と高野街道らしくない景観の写真枚数及び割合

	居住者		学生	
	景数	割合(%)	景数	割合(%)
らしい	63	57.8	63	60.6
らしくない	46	42.2	41	39.4
計	109	100.0	104	100.0

(I) 高野街道らしい景観

居住者が捉えた高野街道らしい景観の撮影位置は河内長野駅～国道371号の区間が32景、50.8%と最も多く、次いで、国道371号～烏帽子形八幡神社の区間が14景、22.2%とやや多く、烏帽子形八幡神社～国道371号の区間が9景、14.3%、国道371号～三日市町駅の区間が8景、12.7%であった。具体的な構成要素を見ると、撮影数の多かった河内長野駅前～国道371号の区間では単体景としてクスノキの大木や灯ろう、敷地景として木造住宅や杉玉、街路景の酒蔵の街並みが多く撮影された。他の区間では、

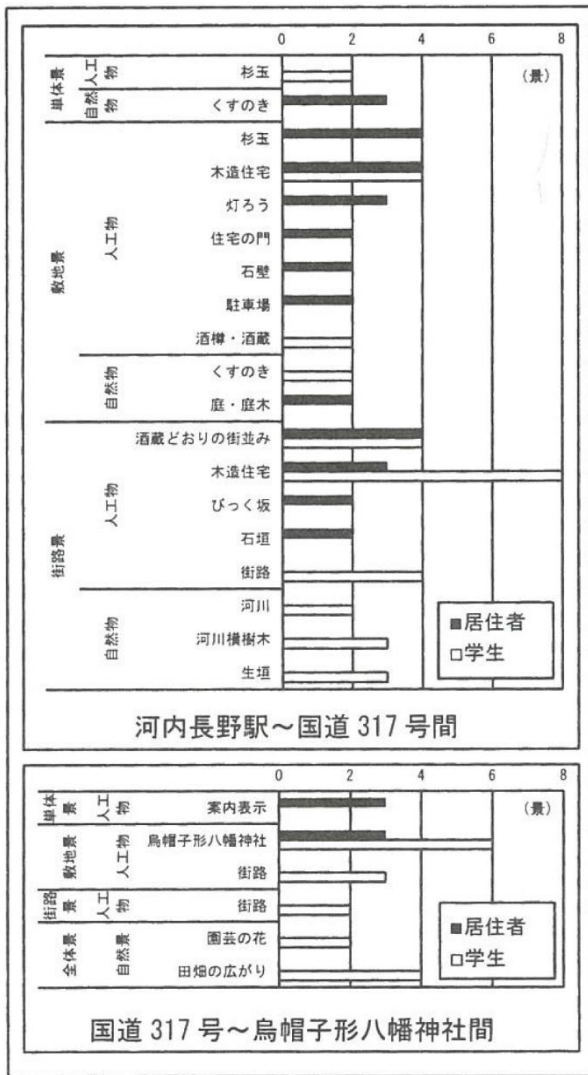


図2. 高野街道らしい景観の撮影対象

单体景として案内表示や地蔵・地蔵堂、敷地景として烏帽子形八幡神社や木造住宅が多く撮影された。国道317号～三日市町駅の区間では、撮影された景観は2割程度であり、撮影対象としては敷地景の木造住宅が多く撮影されているものの、その他の撮影された要素は旧三日市交番や案内表示と限定的である。

学生が捉えた高野街道らしい景観の撮影位置は河内長野駅～国道317号の区間が23景、36.5%と最も多く、次いで、国道317号～烏帽子形八幡神社の区間が14景、23.8%とやや多く、国道317号～三日市町駅の区間が13景、20.6%、烏帽子形八幡神社～国道317号の区間が12景、19.0%留まっている。具体的な構成要素を見ると、撮影数の多かった河内長野駅前～国道317号の区間では敷地景として木造住宅、街路景として酒蔵の街並みや木造住宅の家並み、石畳風の舗装が多く撮影された。他の区間では、敷地景として烏帽子形八幡神社、木造住宅が多く撮影された。また、全体景に分類される景観としては国道317

号～烏帽子形八幡神社の区間に出現する田畑の広がり、烏帽子形八幡神社～国道317号の区間に出現する小丘陵が多く撮影された。

以上のことから、居住者と学生に共通して撮影された木造住宅や酒蔵、烏帽子形八幡神社は高野街道らしさを醸し出す重要な構成要素と考えられる。また、居住者は新設された灯籠や案内表示、沿道住宅の杉玉、その他地蔵、地蔵堂といった単体の要素も高野街道らしさを表出する要素として捉えていることが明らかとなった。さらに、両者に共通して高野街道らしさが感じられている区間は、酒蔵が位置していたり、整備された河内長野駅前～国道317号であることも明らかとなった。

(Ⅱ) 高野街道らしくない景観

居住者が捉えた高野街道らしくない景観の撮影位置は河内長野駅～国道317号の区間が6景、13.0%、国道317号～烏帽子形八幡神社の区間が15景、32.6%、烏帽子形八幡神社～国道317号の区間が12景、26.1%、国道317号～三日市町駅の区間が13景、28.3%と撮影した位置は集積する区間がなく、調査区間全域に渡って一様に分布している。具体的な撮影対象としては、单体景の電線・電柱、敷地景の廃屋、街路景としての一般住宅の家並みが多く撮影された。

学生が捉えた高野街道らしくない景観の撮影位置は河内長野駅～国道317号の区間が9景、22.0%、国道317号～烏帽子形八幡神社の区間が11景、26.8%、烏帽子形八幡神社～国道317号の区間が9景、22.0%、国道317号～三日市町駅の区間が12景、29.3%と撮影した位置は集積する区間がなく、調査区間全域に渡って一様に分布している。具体的な撮影対象としては敷地景としての廃屋、街路景として車通りの多い街路、赤色のカラー舗装に加えて管理放棄された竹林が多く撮影された。

(Ⅲ) 高野街道らしさの解明

居住者、学生ともに、高野街道らしい景観の撮影位置は河内長野駅～国道317号の区間に集積していた。また、居住者、学生ともに、敷地景の木造住宅や烏帽子形八幡神社、街路景の酒蔵とおりのまち並みといった景観構成要素を多く撮影している。この区間は修景整備が重点的に行われ、歴史・文化資源が集積していることから、歴史を感じられる建築物が多く撮影されており、統一感のある街並みや歴史性の感じられる景観は居住者にとっても来訪者にとっても高野街道らしいと捉えられていることが分かる。また、居住者は新設された灯ろうや案内表示、沿道住宅の杉玉、地蔵・地蔵堂といった単体の要素も高野街道らしさを表出する要素として捉えていることが明らかとなった。一方学生は、居住者と比較すると様々な景観構造をとらえる傾向にあり、田畑の広がりや小丘陵といった全体景も捉えていることが特徴といえる。



図4-1. 石畳風舗装



図4-2. 杉玉

高野街道らしくない景観としては、居住者、学生ともに街道の統一感を損なう単体景の電線・電柱や敷地景の廃屋、街道のつながりを分断する街路景の一般街路や国道371号を多く撮影している。また、居住者は単体景の電線・電柱について10景と特に多く撮影しており、街道の統一感を損なう要素を高野街道らしくないと感じているといえる。その他の要素については、居住者は、街路景としての一般住宅の家並みを多く撮影しているのに対し、学生は街路景としての一般街路について14景と非常に多く撮影しており、街道を分断する一般街路を好ましくないと捉えている。

4. まとめ

居住者と学生に共通して高野街道らしさが最も感じられている区間は、酒蔵が位置していたり、修景整備が行われた河内長野駅前～国道371号である。また、両者に共通して撮影された木造住宅や酒蔵、烏帽子形八幡神社といった歴史的建築物は高野街道らしさを醸し出す重要な景観構成要素と考えられる。さらに、居住者にとっては地蔵・地蔵堂に加えて、新たに整備された灯ろうや案内表示等のファニチャー類とともに軒下への杉玉の設置によっても高野街道らしさを感じていることが明らかとなり、修景整備の効果がある程度確認された。以上のことから、高野街道らしさの表出には酒蔵どおりのような統一感のある修景整備が求められ、具体的には歴史資産の保全や杉玉や灯ろうのようなファニチャーの挿入が、今後の高野街道らしさの向上に効果的であると考えられる。

一方、高野街道らしさに破壊感を与えている景観写真は、調査区間全域に一樣に分布しており、景観構成要素としては、街道の統一感を損なう電線や電柱、近代的な建築物や手入れの行き届いていない廃屋や竹林、街道のつながりを分断する一般街路が多く撮影された。以上のことから、高野街道らしさの低減を抑制するには電線の地中化、沿道建築物や竹林の適切な管理とともに一般街路への修景舗装や案内表示の設置が重要と考えられる。

参考文献

- 1) 国土交通省ホームページ
http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudokeikaku_tk5_000052.html 2017. 1. 26
閲覧
- 2) 及川雅紀・橋本都子(2011)：「写真投影法を用いた街の景観評価に関する研究 -街路歩行者の散策行動を対象にし

て-」, MERA, VOL. 27, p. 52

- 3) 塩田定俊・吉川眞・田中一成(2008)：「枚方宿における歴史的街並みの変遷」, 景観・デザイン研究講演集, NO. 4, pp. 251-254
- 4) 國井洋一・古谷勝則(2010)：「フラクタル解析を用いた尾瀬国立公園におけるシークエンス景観の定量分析」, ランドスケープ研究, VOL. 73, pp. 585-588
- 5) 水内佑輔・孫鏞勲・姜炆錫・古谷勝則(2015)：「写真投影法とGPSを併用した利用者が評価する風景の調査手法の構築」, ランドスケープ研究, VOL. 8, pp. 1-8
- 6) 工藤和美・重村力・長尾健・吉武宗平(1993)「写真投影法による環境イメージの分析」, 日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1271-1272
- 7) 小塚みすず・三寺潤・川本義海・本田義明(2005)「歴史街道を生かした地域整備の方向に関する研究」, 日本海地域の自然と環境, VOL. 12, pp. 51-60
- 8) 河内長野市観光協会ホームページ
<http://www.kankou-kawachinagano.jp/inde.cgi>
2017. 02. 03 閲覧
- 9) 河内長野市ホームページ
<http://www.city.kawachinagano.lg.jp/> 2017. 02. 13 閲覧
- 10) 杵浦理子・加我宏之・上甫木昭春・増田昇(2000)：「『住みやすいまち』と『訪れたいまち』としての魅力から捉えた生活者と来訪者の景観評価に関する一致点と相違点」, 日本都市計画学会学術研究論文集, VOL35, pp. 805-810
- 11) 加我宏之・待井陽介・下村恭彦・増田昇(2001)：「建替団地を対象とする写真投影法を通じた保存樹・保存物風景的意義に関する研究～プロムナード関目を事例として～」, 都市計画, VOL. 238, pp. 47-52
- 12) 松末真知子(2003)：「文学作品中の空間描写から読み解く都市における『自然』の捉え方の考察-大阪におけるケーススタディ-」, 大阪府立大学院生命環境科学研究科修士論文
- 13) 高橋諭史(2005)：「路面電車の車窓シークエンス景観の魅力についての考察-阪堺線堺区間を事例として-」, 大阪府立大学農学部卒業論文
- 14) 加我宏之・田川圭佑・武田重昭・増田昇(2012)：「堺市大美野住宅地において継承されてきた地域資源の風景的価値に関する研究」, 都市計画論文集, VOL. 48, pp. 375-380
- 15) 有南恵莉(2014)：「ローカル電車・貴志川線における車窓風景の魅力の解明」, 大阪府立大学生命環境科学域卒業論文
- 16) 董雯(2016)：「歩行空間における緑環境特性から捉えたシークエンス景観の魅力の解明」, 大阪府立大学生命環境科学域卒業論文